

## 2022年度

## 東洋大学 IR ニュースレター

### Vol.1 (通算第6号)

## 卒業生の満足度と身に付いた能力 「2021年度卒業時アンケート調査」結果



東洋大学  
学長・IR室長 矢口悦子

大方の予想に反し2年以上も続いている新型コロナウイルス感染症の蔓延は、大学生活にも大きな影響を与えました。とにかく初めての対応に終始した2020年度に比べ、2021年度は学生も教職員も様々な改善や新しい取り組みを重ね、少しでも授業の質を向上させようと努力してきました。この間ずっと制限された条件の中で学び、卒業研究や卒論作成に取り組み、オンライン中心の就職活動を経験した卒業生たちは、大学生活をどのように評価しているのだろうか、と案じていた私は、卒業生たちがこれまで以上に高い満足度をもって巣立ってくれたことを知り、安堵しています。特に、調査概要の「経験した授業形態」において2020年度からの数字の推移を見ますと、学生たちの求める学びへ応えるために、教員も努力を重ねてきたことが読み取れます。卒業生たちは、自らの努力を讃える自己評価と期待へ応えようと取り組む教員の姿を重ねて評価しているように思われ、困難の中で学生と教職員がともに歩んだ記録として、今回のアンケートを大切に受け止めたいと考えております。

## 「2021年度卒業時アンケート」調査概要

調査期間：2022年3月17日～31日 実施対象：2021年度卒業生6,847名 回答状況：1,415名(回答率20.7%)

### 年度別回答者数/回答率

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業生数(人)	6,412	6,622	6,914	6,963	6,847
回答者数(人)	5,950	6,127	699	1,365	1,415
回答率(%)	92.8	92.5	10.1	19.6	20.7

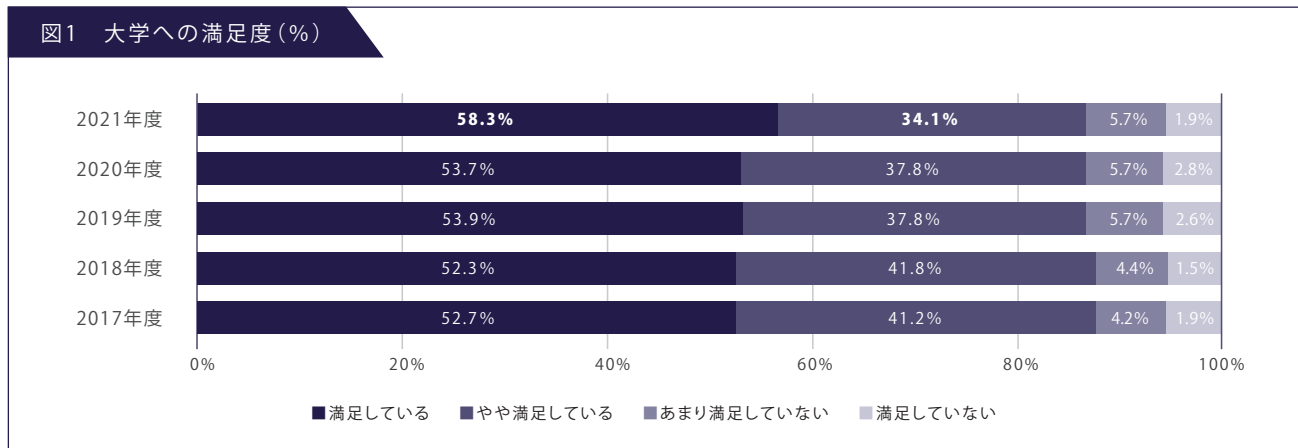
※2018年度まではマークシート、2019年度以降はWebアンケートで実施

分析担当：IR室 教授 劉文君

分析の目的：2021年度の卒業生は、2年間をコロナ禍の中で過ごした。このことが卒業生の満足度、身に付いた能力への自己評価にどのような影響を与えたか、これを明らかにするため、過去5年間の卒業時アンケートのデータを用いた比較を行う。さらに、関連要因として、満足度と「身に付けた能力(自己評価)」「経験した授業形態」の相関を分析する。

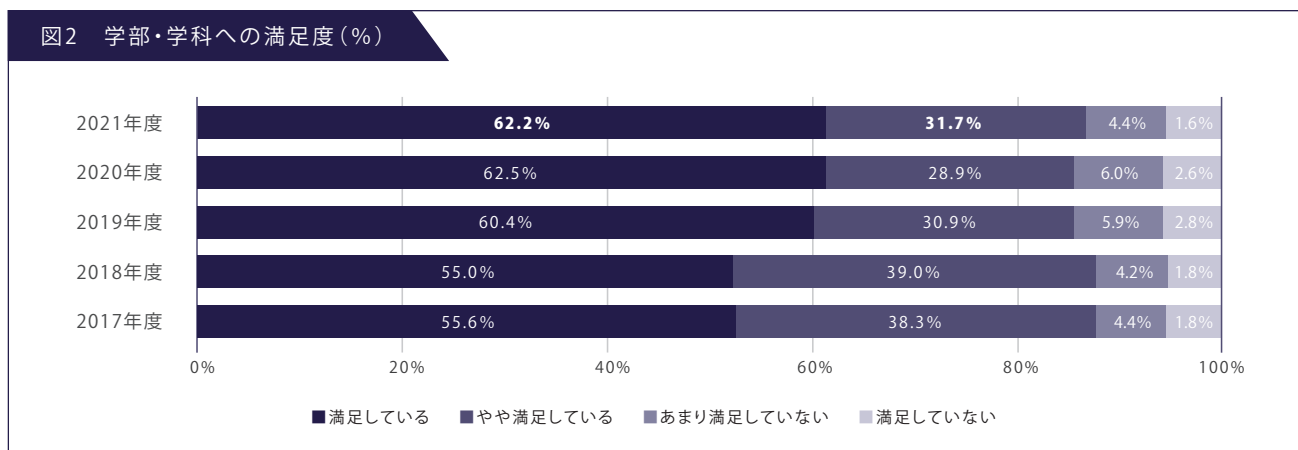
# 1. 卒業生の満足度

## ① 大学への満足度 (%)



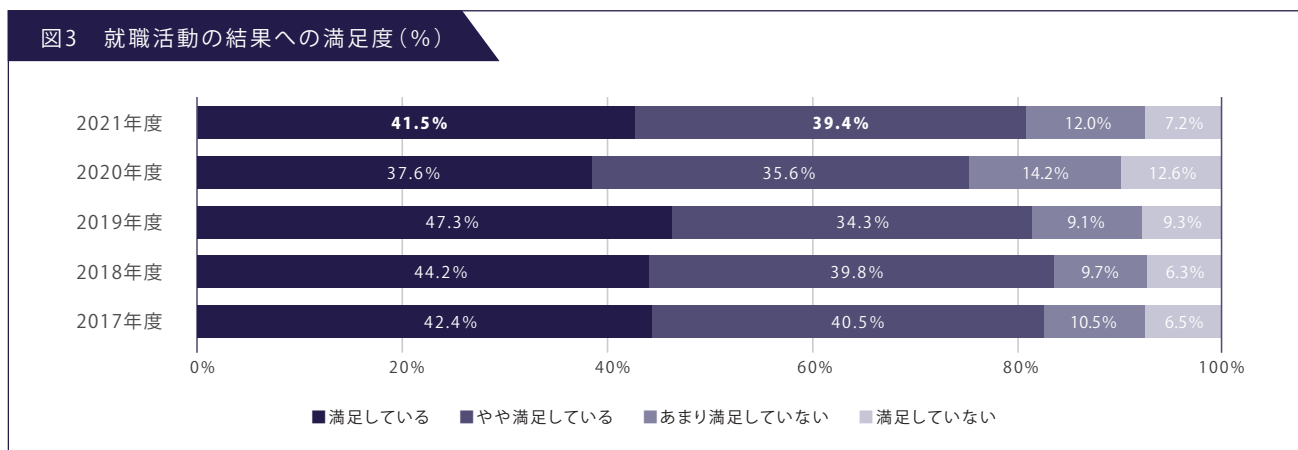
「満足している」と回答した割合は58.3%と過年度より高く、「やや満足している」(34.1%)と合わせて92.4%。コロナ禍の中、高い満足度が維持されている。

## ② 学部・学科への満足度



「満足している」と回答した割合は62.2%、「やや満足している」(31.7%)と合計すると93.9%となり、過年度より高い。

## ③ 就職活動の結果への満足度 (%)

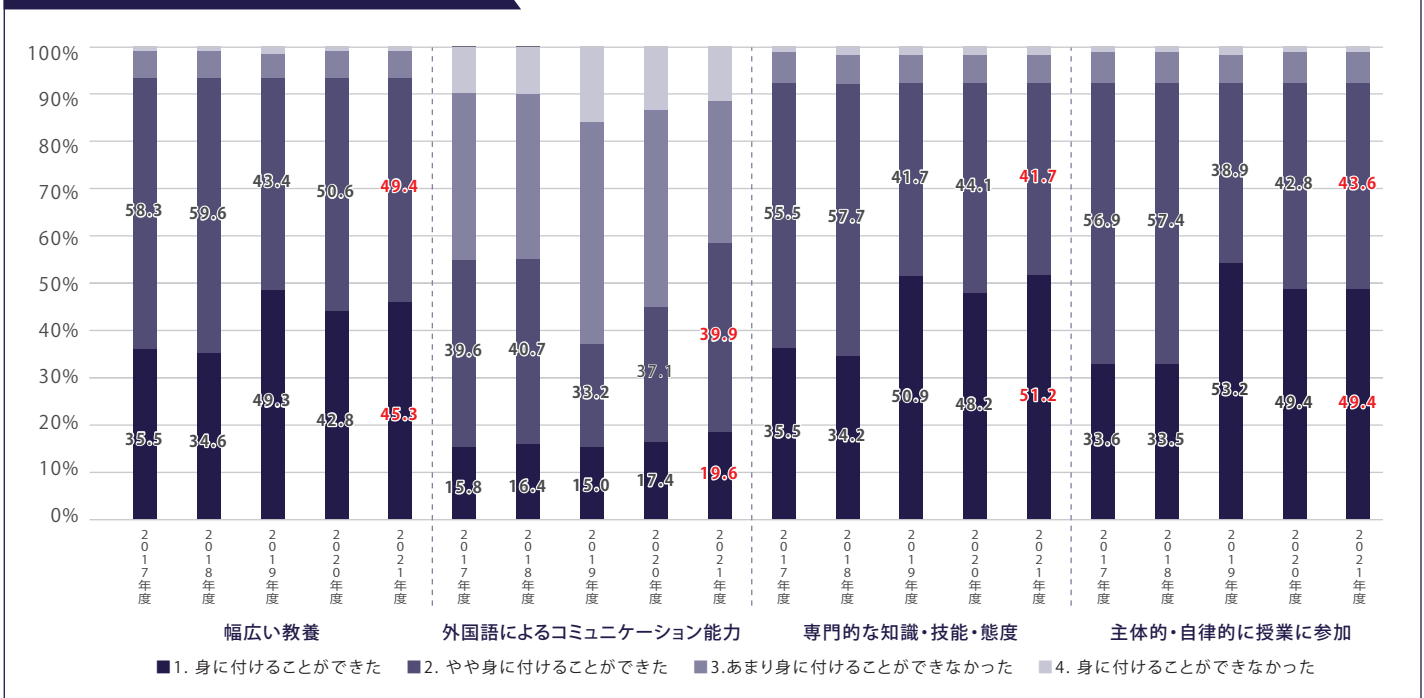


「満足している」(41.5%)と「やや満足している」(39.4%)と合わせて80.9%。2020年度より高く、概ねコロナ禍前の水準に戻っている。

「大学」「学部・学科」「就職活動の結果」への満足度に関しては、留学生と日本人学生の回答にはいずれも有意な差は見られなかった(データ略)。

## 2.身に付けた能力の自己評価

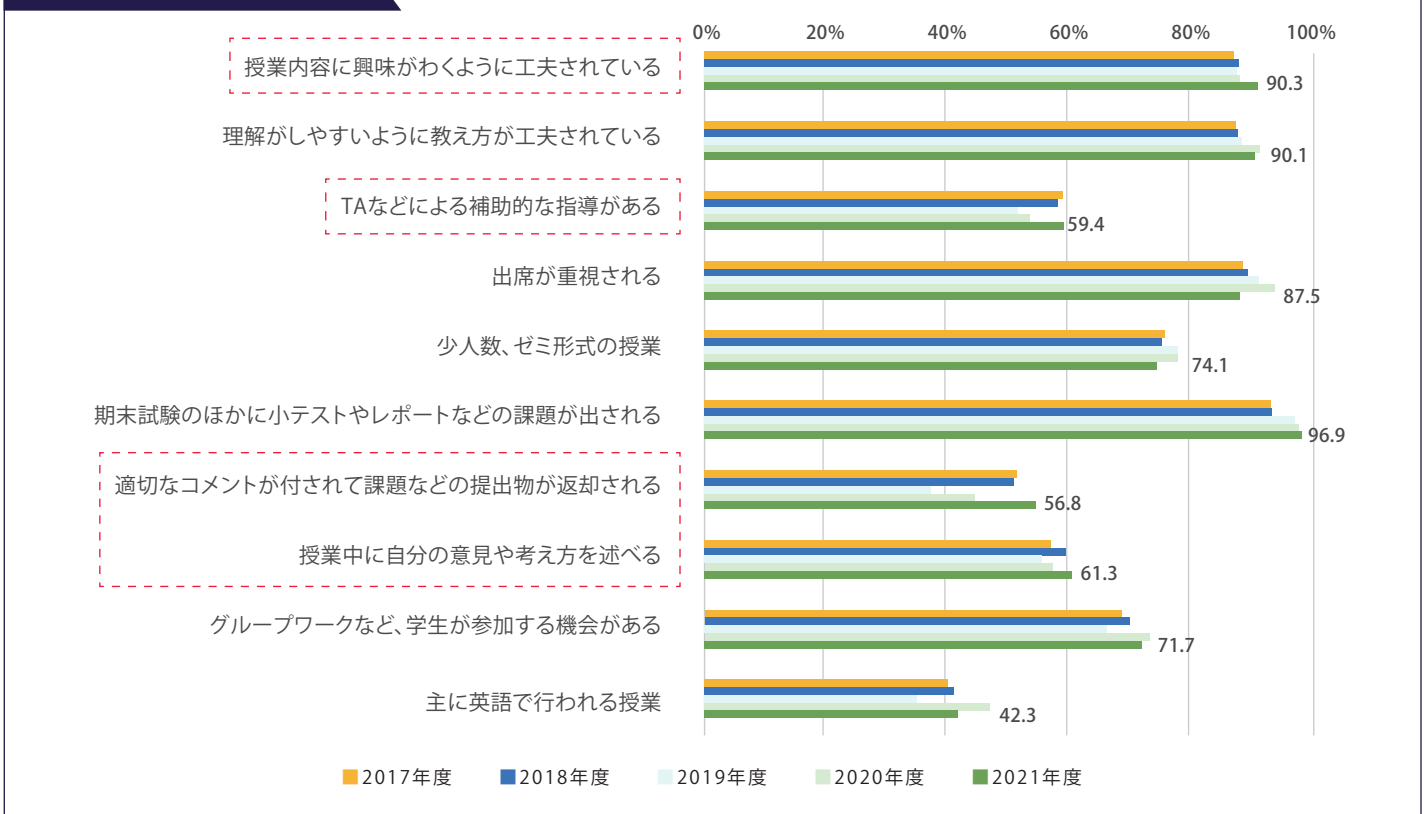
図4 身に付けた能力(自己評価)・(%)



「幅広い教養」「外国語によるコミュニケーション能力」「専門的な知識・技能・態度」「主体的・自律的に授業に参加」について、肯定的な回答(「身に付けることができた」「やや身に付けることができた」)の割合はいずれも過年度よりも高い。

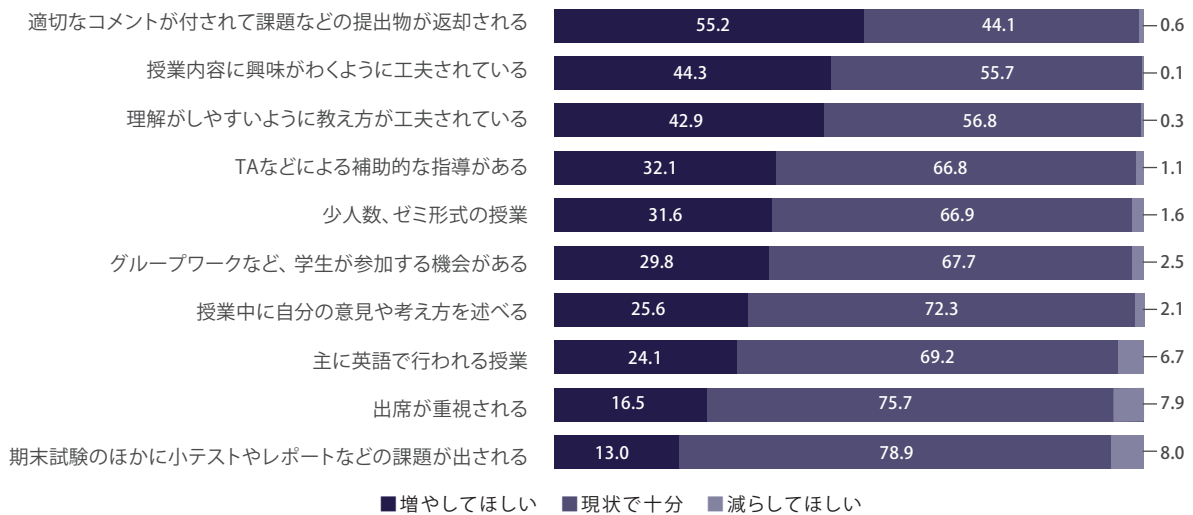
## 3.経験した授業形態

図5 経験した授業形態(%)



「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」「授業内容に興味をわくように工夫されている」「TAなどによる補助的な指導がある」などを経験した(「よくあった」「ある程度あった」)割合が、昨年およびコロナ禍前の割合より高くなっている。

図6 増やしてほしい授業形態 (%)



他方、「増やしてほしい」授業形態について、回答の割合を高い順から「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」(55.2%)、「授業内容に興味がわくように工夫されている」(44.3%)、「理解がしやすいように教え方が工夫されている」(42.9%) などとなっている。

## 4. 満足度と「身に付けた能力(自己評価)」・「経験した授業形態」との関連

### ① 満足度と「身に付けた能力(自己評価)」

表1 満足度と「身に付けた能力(自己評価)」の相関(相関係数)

		学部・学科への満足度	大学への満足度
身に付けた能力	①幅広い教養	.443**	.406**
	②コミュニケーション能力	.240**	.258**
	③専門知識・技能・態度	.499**	.355**
	④主体的・自律的参加	.411**	.322**
就職活動の結果への満足度		.297**	.216**

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意(両側)

表1に示されているように、「身に付けた能力」(自己評価)、「就職活動の結果への満足度」は「学部・学科への満足度」、「大学への満足度」に寄与している。能力別に見ると、特に「幅広い教養」「専門的知識・技能・態度」「主体的・自律的参加」との相関が高い。

### ② 満足度と「経験した授業形態」

表2 学部・学科への満足度と「経験した授業形態」の相関(相関係数)

		学部・学科への満足度	大学への満足度
授業形態	理解がしやすいように教え方が工夫されている	.395**	
	授業内容に興味がわくように工夫されている	.400**	
	少人数、ゼミ形式の授業	.273**	
	適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される	.251**	
	授業中に自分の意見や考え方を述べる	.252**	
	出席が重視される	.139**	
	グループワークなど、学生が参加する機会がある	.263**	
	期末試験のほかに小テストやレポートなどの課題が出される	.279**	
	TAなどによる補助的な指導がある	.216**	
大学への満足度		.623**	

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意(両側)

表2から分かるように、「授業内容に興味がわくように工夫されている」「理解がしやすいように教え方が工夫されている」「期末試験のほかに小テストやレポートなどの課題が出される」「少人数、ゼミ形式の授業」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」などの授業形態を経験した学生の方が「学部・学科への満足度」が高い。また、「学部・学科への満足度」と「大学への満足度」には強い相関があり、「学部・学科への満足度」への満足度が高い学生は「大学への満足度」も高い。

### まとめ

コロナ禍にも拘らず、卒業生(留学生を含む)は「大学」「学部・学科」「就職活動の結果」に関して、高い満足度を維持している。また、卒業生の「身に付けた(各種)能力」への自己評価も例年より若干高い傾向が見られた。「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」「授業中に自分の意見や考え方を述べる」「授業内容に興味がわくように工夫されている」「TAなどによる補助的な指導がある」などの授業形態を経験した割合が増えている。2020年度と同じく、「身に付けた能力(自己評価)」と「就職活動の結果」は大学や学部・学科への満足度に寄与している。また、「授業内容に興味がわくように工夫されている」「理解がしやすいように教え方が工夫されている」「少人数、ゼミ形式の授業」「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」などの授業形態は学部・学科への満足度に重要な影響を与えたことが確認された。こうした授業形態は経年的には増加しているが、学生は「増えてほしい」と考えている。